

幼稚園教諭・保育士に関わるピアノ技能に対する認識について  
——学生を対象とした調査結果から——

The recognition of piano playing skills required for preschool and nursery teachers :  
An analysis of students' responses to a questionnaire

生地 加代, 和田垣 究, 藤谷 智子

IKCHI Kayo, WADAGAKI Kiwamu, FUJITANI Tomoko

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第3号 2018年

【実践報告】

幼稚園教諭・保育士に関わるピアノ技能に対する認識について  
——学生を対象とした調査結果から——

The recognition of piano playing skills required for preschool and nursery teachers :  
An analysis of students' responses to a questionnaire

生地加代\* 和田垣究\*\* 藤谷智子\*

IKCHI, Kayo\* WADAGAKI, Kiwamu\*\* FUJITANI, Tomoko\*

キーワード：ピアノ技能 弾き歌い ボランティア経験

## I 研究の目的

教育学科・幼児教育学科のピアノ科目では、さまざまな練習曲や楽曲を吟味して学生に課題を与えている。しかし、それらが学生にとってふさわしいものであるのか、そして学生の将来の目標のために役立っているのか、またやる気を引き出すような課題であるのかなど、指導教員として考えさせられることは多い。「我々指導者は、指導者と学生との関係が、ゆくゆくは保育現場での保育者と子どもとの関わりのひな形になるであろうことを心して指導していかなくてはならない」と高地<sup>(1)</sup>は述べている。大学・短大におけるピアノ科目の指導においても学生との信頼関係は必須であろう。ピアノ科目の授業に対して学生がどう考え何を求めているのか、また、ボランティア経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験の有無で学生の意識に差は出るのかなど学生の実態を知った上で授業内容を再度見直す必要があると考える。そこで、大学生、短大生双方に質問紙を配布し、学生がどのような意識でピアノを学んでいるのか、またどのような技能を身につけようとしているのか、ボランティア経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験の有無と関連させながらそれらを把握した上で、今後の授業展開を再考することを本研究の目的とする。あくまでも、学生の意識や意見ではあるが、それらを一つの拠り所として今後の指導の在り方を探っていくことが必要であると考えられる。

## II 研究の方法

### ●対象

大学4年生 44名（回収数44名，回収率100%）

大学2年生 165名（回収数163名，回収率98.7%）

短大2年生 84名（回収数81名，回収率98.4%）

### ●対象学生の履修科目

大学4年生 教科器楽Ⅲ

「教科器楽Ⅲ」は、「教科器楽Ⅰ」（ピアノの基礎的な演奏技術を身につける）「教科器楽Ⅱ」（教科器楽Ⅰで培ったピアノの演奏技術を使って弾き歌いの練習など、より実践的な演奏技術を身につける）の合格者が履修できるピアノ技能に関する科目の最後の授業である。従って、履修経験年数は1年半である。

\* 教育学科教授 \*\* 教育学科准教授

\*教育学科では平成 27 年度，以下のように科目名を変更した。尚，授業内容は同じである。

教科器楽Ⅰ→教科器楽基礎

教科器楽Ⅱ→伴奏法と弾き歌い

教科器楽Ⅲ→アンサンブルと弾き歌い

大学 2 年生 伴奏法と弾き歌い

「伴奏法と弾き歌い」は「教科器楽基礎」の合格者が履修できる科目である。従って、履修経験年数は 1 年である。

短大 2 年生 アンサンブルと弾き歌い

「アンサンブルと弾き歌い」は、「教科器楽基礎」と「伴奏法と弾き歌い」の合格者が履修できるピアノ技能に関する科目の最後の授業である。従って、履修経験年数は 1 年半である。

●対象学年の実習経験；

大学 4 年生 幼稚園実習（全員）保育所実習（保育士課程履修者のみ）

大学 2 年生 実習経験なし

短大 2 年生 保育所実習（全員）

●実施時期，平成 29 年 7 月 11 日（火）～7 月 21 日（金）

前期最終授業時に実施し，要した時間は 10 分程度である。

●アンケート内容

以下の各質問項目において，筆者らが設定した小項目の当てはまるものに○をつけるように指示した。小項目の詳細は「結果と考察」における各表に記載している。以下が質問項目である。

I 保育現場でのボランティア経験はありますか？

II そのボランティア経験の中で，ピアノ（キーボード）を使った保育をしたり見たりした経験はありますか？（質問 1 であると答えた人への質問）

III 学生時代に修得しておくべきピアノ技能はどのレベルまでが必要だと思いますか？

IV 歌の伴奏については，どちらがより必要だと思いますか？（コード伴奏と楽譜通りの伴奏）

V 子どもの動きを導く，また動きに合わせる演奏や動物を表現するような即興演奏は，ピアノ技能レベルの高い人の方が低い人より優れていると思いますか？

VI 大学では，ピアノ教則本（バイエルやブルグミュラー等）を使ってピアノ技能を高める授業と子どもの歌の伴奏付けの授業とではどちらがより重要だと思いますか？

VII 弾き歌いでは歌唱力と伴奏力のどちらがより重要だと思いますか？

★自由記述欄

●分析方法

アンケートの回答を Excel でデータ入力し，学年別集計や研究目的に沿ってクロス集計を行った。

### Ⅲ 結果と考察

#### (1) 質問①から⑦について

① 保育現場でのボランティア経験はありますか？

全体で43%の学生(各学年の割合は表1の通り)が保育現場でのボランティア経験ありと回答している。

幼稚園実習・保育所実習とも経験している大学4年生は、66%の学生がボランティアを経験している。実習を経験したことにより、より現場での経験が必要と考えた可能性もある。また、短大2年は半数以上の学生がボランティアを経験しているが、大学2年生については約3分の1の学生しかボランティアを経験していない。同じ2年生でも、2年間の学生生活の後すぐに社会に出る短大生と、まだ2年間学生生活のある大学生との意識の違いが表れているとも考えられる。

表1 保育現場でのボランティア経験

経験有無 学年	「ある」と回答	「ない」と回答
大学4年	66%	34%
大学2年	31%	69%
短大2年	53%	47%

② そのボランティア経験の中で、ピアノ(キーボード)を使った保育をしたり見たりした経験はありますか？

質問①でボランティア経験ありと回答した123名の学生に尋ねた結果である。保育現場でピアノ(キーボード)を使った保育をしたり見たりした経験があると回答した学生は、全体ではほぼ半数の48%(各学年の割合は表2の通り)であった。

保育現場には幼稚園、こども園、保育所、施設などがあるので一概には言えないが、ほぼ半数に近い保育現場がピアノ(キーボード)を使って保育をしているのが現状である。今回はボランティア経験に限っての質問であり実習経験は含んでいないので、それらの経験も含むとより多くの保育現場でピアノ(キーボード)を使った保育をしている可能性は高いと考えられる。また注目すべきは、幼稚園実習を経験している大学4年生の「ある」と回答した割合が68%と突出して高い。実習後に実習園へボランティアとして参加経験する学生がいることもあり、(今回はそこまでの調査は行っていないが)保育現場でもよりピアノを使う可能性の高い幼稚園へのボランティアが多かった可能性も考えられる。

表2 ピアノを使った保育の参観経験

経験有無 学年	「ある」と回答	「ない」と回答
大学4年	68%	32%
大学2年	39%	61%
短大2年	43%	57%

③ 学生時代に修得しておくべきピアノ技能はどのレベルまでが必要だと思いますか？

結果は「ブルグミュラー25の練習曲修得レベル」と回答した学生が最も多く、全体では74%（各学年の割合は表3の通り）であった。

「ブルグミュラー25の練習曲」は、技量的にも音楽的にも程よいピアノ教材である。指の複雑な動きやテクニックを身につけるだけでなく、それぞれの曲に表題が付けられており、その表題から想像力を膨らませることによりバイエルより1ランク上の音楽的表現も身につけることができる。後半の曲になるとソナチネの曲より難度の高い曲もある。学生の回答結果は筆者らの予想通りであった。ただ「バイエル修得レベル」と回答した学生が少数ではあるが大学4年生に多かったという点は注目すべきことである。保育現場でのボランティア経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験の割合が最も高かった大学4年生が、バイエル終了レベルでもよいと回答した点は、今後のピアノ指導においても考慮すべき点であるかもしれない。

表3 学生時代に修得しておくべきピアノ技能

ピアノ技能 学年	バイエル修得レベル (初級)	ブルグミュラー25の練習曲修 得レベル (中級)	ソナチネ・ソナタ修得レベ ル (上級)	それ以上
大学4年	11%	71%	18%	0%
大学2年	9%	73%	18%	0%
短大2年	1%	78%	21%	0%

④ 歌の伴奏については、どちらがより必要だと思いますか？

結果は「コードネームを用いた伴奏」「どちらかといえばコードネームを用いた伴奏」と回答した学生は全体の60%（大学4年生82% 大学2年生51% 短大2年生69%）であった。そして、ボランティア経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の割合が最も高かった大学4年生が82%と一番高くなっている。やはり保育現場ではコードネームを用いた伴奏の方がより柔軟に対応できたことがうかがわれる。自由記述欄には、「初見時にはコード伴奏の方が簡単に伴奏付けできる」「子どもの様子を見ながらピアノを弾く余裕ができる」などの記載が目立った。但し、残りの39%（大学4年生18% 大学2年生49% 短大2年生31%）の学生は「どちらかといえば楽譜通りの伴奏」「楽譜通りの伴奏」と回答している。その理由として自由記述欄には「楽譜通りで弾くとリズムカルになるから」や、「より音楽的に表現できるだから」などの記載があった。

当然ながら、楽譜通りに弾く方が作曲者の意図も反映され表現の幅も広がるであろう。しかし時間的に余裕がない場合や初見時に、楽譜通りの伴奏を弾くにはかなり高度なテクニックを必要とする。奥田<sup>②</sup>も「ピアノ伴奏技能向上を目指す指導上の試み」の中で「コード学習から導入する指導法を推し進めていかなければならない」と言及している。筆者らも、コードネームによる伴奏を修得した後に、時間をかけてピアノ技能を高めていく方法が現場での柔軟な対応には最も効果的であると考える。

表4 伴奏における重要度（コード伴奏か楽譜通りの伴奏か）

学年	伴奏の重要度	コードネームを用いた伴奏	どちらかといえばコードネームを用いた伴奏	どちらかといえば楽譜通りの伴奏	楽譜通りの伴奏
大学4年		18%	64%	16%	2%
大学2年		12%	39%	45%	4%
短大2年		23%	46%	25%	6%

⑤ 子どもの動きを導く、また動きに合わせる演奏や動物を表現するような即興演奏は、ピアノ技能レベルの高い人の方が低い人より優れていると思いますか？

結果は、「より優れていると思う」「やや優れていると思う」と回答した学生が全体の75%（大学4年生68% 大学2年生76% 短大2年生77%）であった。大学2年生と短大2年生はほぼ同じ割合、大学4年生だけが10%ほど低くなっている。自由記述欄には、「ピアノ技能レベルが高いほど、より自在に指を動かすことも可能であり早いリズム（ギャロップやスキップ・駆け足）の曲も苦勞なく弾くことができるから」や、「どの音を使えばどのような表現ができるかなどが分かっているから」などの記載が多かった。

また、「あまり関係ないと思う」「全然関係ないと思う」と回答した学生は全体で25%（大学4年生32% 大学2年生24% 短大2年生23%）であった。大学2年生と短大2年生の割合はほぼ同じであり、大学4年生だけが10パーセントほど高くなっている。自由記述欄には、「即興演奏はその人の音楽的センスと感性が必要だと思う」や、「ピアノ技能より、子どもを感じる力、導く力が大切だと思う」などの記載が目立った。大学4年生については、ボランティアの経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験が豊富なため、動きに合わせる即興演奏などはピアノ技能そのものより保育者としての資質が重要であると感じた可能性がある。

ピアノ技能の高い方が表現の幅が広がるのは確かであろう。しかし、低音でゆっくりしたリズムは大きな動物や夜の気配、高音で早いリズムは小動物の動き等、表現は保育者の感性にゆだねられる要素も大きくピアノ技能だけの問題ではないかもしれない。

表5 即興演奏とピアノ技能の高さ

学年	ピアノ技能の高さ	より優れていると思う	やや優れていると思う	あまり関係ないと思う	全然関係ないと思う
大学4年		41%	27%	27%	5%
大学2年		40%	36%	20%	4%
短大2年		53%	24%	17%	6%

⑥ 大学では、ピアノ教則本（バイエルやブルグミュラー等）を使ってピアノ技能を高める授業と子どもの歌の伴奏付けの授業とではどちらが重要だと思いますか？

結果は、「歌の伴奏付けの授業の方がより重要」「歌の伴奏付けの授業の方がどちらかといえば重要」と回答した学生が全体の56%（大学4年生32% 大学2年生61% 短大2年生56%）を占め、それに対して、「ピアノの技能を高める授業の方がどちらかといえば重要」「ピアノの技能を高める授業の方がより重要」と回答した学生は、全体で2%（大学4年生1% 大学2年1% 短大2年生4%）

に過ぎなかった。また、「どちらの授業も同じくらい重要」と回答した学生は全体で 43%（各学年の割合は表 6 の通り）と、全体の半数以下であるという現状であった。しかし、ボランティア経験やピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験率の最も高かった大学 4 年生の 66%は「どちらの授業も重要」と回答しており、他の学年を大きく上回っている。

保育の現場でピアノ曲を演奏することはないので、学生たちが歌の伴奏付けの授業をより重要と考えたのは当然のことと言える。歌の伴奏付けのピアノは難度の高いテクニックが要求されるものではないが、鍵盤にかじりつかず子どもの表情や様子を見ながら、時々リズムに変化を持たせたりコードを変えて曲の雰囲気を変えたりするにはかなりのピアノ技量を必要とする。強弱をつけて表情豊かに演奏する基礎的技術の修得のため、時間の許す限り両方の均等な授業時間が必要であろう。

表 6 授業による重要度

学年	授業による重要度	歌の伴奏付の授業の方が重要	歌の伴奏付の授業の方がどちらかといえば重要	どちらの授業も同じくらい重要	ピアノの技能を高める授業の方がどちらかといえば重要	ピアノ技能を高める授業の方がより重要
大学4年		5%	27%	66%	2%	0%
大学2年		18%	43%	38%	1%	0%
短大2年		23%	33%	41%	1%	2%

⑦ 弾き歌いでは歌唱力と伴奏力のどちらが重要だと思いますか？

結果は、「歌唱力がより重要」「どちらかといえば歌唱力が重要」と回答した学生は、全体の 43%（大学 4 年生 32% 大学 2 年生 47% 短大 2 年生 41%）、「どちらも同じくらい重要」と回答した学生は全体の 45%（各学年の内訳は表 7 の通り）「どちらかといえば伴奏力が重要」「伴奏力がより重要」と回答した学生は全体の 12%（大学 4 年生 13% 大学 2 年生 10% 短大 2 年生 13%）であった。「どちらも同じくらい重要」と回答した学生が「歌唱力がより重要」「歌唱力がどちらかといえば重要」と回答した学生をわずかに上回っている。また、55%の大学 4 年生が弾き歌いにおける伴奏力も歌唱力も「どちらも同じくらい重要」と回答していることは、実習もボランティア経験も踏まえたうえで、両方の重要性に気付いていることを示している。

伴奏力と歌唱力、両方とも同じくらい重要ではあるが、それに加えて、水崎<sup>③</sup>が「幼児の歌声を録音する新しい方法」の中「<先生の声を聞いて>や<最後まで同じ声でうたって>などの注意力を喚起する助言は、きれいな声で音高を保持して歌うことに有効であることを観察記録に基づいて明らかにした」と述べているように、保育者の子どもの歌声への観察力、また、その観察力に基づく助言も必要であろう。

表 7 弾き歌いにおける重要度（歌唱力が伴奏力か）

学年	弾き歌いの重要度	歌唱力がより重要	どちらかといえば歌唱力が重要	どちらも同じくらい重要	どちらかといえば伴奏力が重要	伴奏力がより重要
大学4年		7%	25%	55%	11%	2%
大学2年		9%	38%	43%	10%	0%
短大2年		14%	27%	46%	11%	2%

(2) 質問①②の学生のボランティア経験・ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と質問④から⑦)の関連性について

●ボランティア経験・ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と伴奏における重要度の関連性

ボランティア経験の有無と伴奏における重要度について、クロス集計により関連性を検討したところ、約 6 割の学生がコードネームを用いた伴奏を重視し、約 4 割が楽譜通りの伴奏を重視していて、ボランティア経験の有無による差はなかった。同様にピアノを使った保育の参観経験の有無と伴奏における重要度についての関連性も検討したが、ピアノを使った保育の参観経験の有無による差は見られなかった。

●ボランティア経験・ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無とピアノ技能高さの関連性

ボランティア経験の有無とピアノ技能の高さとの関連性を検討したところ、ボランティア経験のない学生の 80%が「より優れていると思う」「やや優れていると思う」と回答しており、ボランティア経験のある学生の 69%を上回っている。同様にピアノを使った保育の参観経験の有無とピアノ技能の高さとの関連性も検討したが、ピアノ（キーボード）を使った保育をしたり見たりした経験のない学生の 75%が「より優れていると思う」「やや優れていると思う」と回答しており、経験のある学生の 62%を上回っている。

この結果から、ボランティア経験のある学生、またピアノ（キーボード）を使った保育経験のある学生の方がいない学生よりピアノ技能の高い方が即興演奏などでは有利であると感じておらず、技能の高さとはあまり関係ないと考えていることがわかる。それよりも保育現場においては子どもを見る力、子どもに寄り添い共に感じる力などがより大切なのではないかと感じた学生がボランティア経験者やピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験者の中に比較的多数いたということは注目すべき点である。

表 8-1 ボランティア経験の有無とピアノ技能の高さの関連性

ボランティア経験の有無	ピアノ技能の高さ			
	より優れていると思う	やや優れていると思う	あまり関係ないと思う	全然関係ないと思う
「ある」と回答	41%	28%	26%	5%
「ない」と回答	47%	33%	15%	5%

表 8-2 ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無とピアノ技能の高さの関連性

ピアノを使った保育参観経験	ピアノ技能の高さ			
	より優れていると思う	やや優れていると思う	あまり関係ないと思う	全然関係ないと思う
「ある」と回答	40%	22%	29%	9%
「ない」と回答	41%	34%	23%	2%

● ボランティア経験・ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と授業における重要度の関連性

ボランティア経験の有無と授業における重要度の関連性を検討したところ、ボランティア経験のある学生の49%が「歌の伴奏付けの授業の方が重要」「歌の伴奏付の授業の方がどちらかと言えば重要」と回答し、また、49%の学生が「どちらの授業も同じぐらい重要」と回答している。ボランティア経験のない学生は、61%の学生が「歌の伴奏付けの授業の方が重要」「歌の伴奏付の授業の方がどちらかと言えば重要」と回答し、37%の学生が「どちらの授業も同じぐらい重要」と回答しており、ボランティア経験のある学生の方が「どちらの授業も同じぐらい重要」と考える割合が多かった。また、ピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験の有無と授業における重要度の関連性を検討したところ、ピアノ（キーボード）を使った保育経験のない学生の43%が「どちらの授業も同じぐらい重要」と回答しているのに対して、ピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験のある学生の58%が「どちらの授業も同じぐらい重要」と回答している。

大学4年生に限らず、ボランティア経験をして、さらにピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験を積んだ学生ほど、歌の伴奏付けの授業もピアノの技能を高める授業もどちらも重要であると感じていることがわかる。

表 9-1 ボランティア経験の有無と授業による重要度の関連性

授業による重要度 ボランティア経験有無	歌の伴奏付の授業の方が重要	歌の伴奏付の授業の方がどちらかといえば重要	どちらの授業も同じぐらい重要	ピアノの技能を高める授業の方がどちらかといえば重要	ピアノ技能を高める授業の方がより重要
「ある」と回答	10%	39%	49%	1%	1%
「ない」と回答	23%	38%	37%	1%	1%

表 9-2 ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と授業による重要度の関連性

授業による重要度 ピアノを使った保育参観経験	歌の伴奏付の授業の方が重要	歌の伴奏付の授業の方がどちらかといえば重要	どちらの授業も同じぐらい重要	ピアノの技能を高める授業の方がどちらかといえば重要	ピアノ技能を高める授業の方がより重要
「ある」と回答	7%	33%	58%	2%	0%
「ない」と回答	11%	44%	43%	0%	2%

● ボランティア経験・ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と弾き歌いにおける重要度の関連性

弾き歌いにおける歌唱力か伴奏力かについては、表 10-1 と 10-2 で示されているように、ボランティア経験の有無、ピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験の有無に関わらず回答に差はなかった。伴奏力重視の学生は約 1 割程度であり、歌唱力と伴奏力のどちらも同じぐらい重要と感じている学生が、経験の有無に関わらず半数近くいるという結果であった。

表 10-1 ボランティア経験の有無と弾き歌いにおける重要度の関連性

弾き歌いの重要度 ボランティア経験の有無	弾き歌いの重要度				
	歌唱力がより重要	どちらかといえば歌唱力が重要	どちらも同じくらい重要	どちらかといえば伴奏力が重要	伴奏力がより重要
「ある」と回答	11%	32%	47%	9%	1%
「ない」と回答	9%	35%	43%	12%	1%

表 10-2 ピアノ（キーボード）を使った保育の参観経験の有無と弾き歌いにおける重要度の関連性

弾き歌いの重要度 ピアノを使った 保育参観経験	弾き歌いの重要度				
	歌唱力がより重要	どちらかといえば歌唱力が重要	どちらも同じくらい重要	どちらかといえば伴奏力が重要	伴奏力がより重要
「ある」と回答	10%	33%	48%	9%	0%
「ない」と回答	11%	31%	47%	9%	2%

#### IV 全体的考察

本研究を通して得られた結果は以下の通りである。

- ① 弾き歌いの伴奏付けについては、コードネームを使った伴奏の方が多くの曲に臨機応変に対応することができる、と多くの学生が感じている。特に同じ卒業学年でも、ボランティア経験率も高く幼稚園実習も経験した大学4年生の方が短大2年生よりそう考える学生が多かった
- ② 子どもの動きを促す即興演奏などについては、ピアノの技能が高いほど有利であると回答した学生は多かったが、特に大学4年生など経験を積んだ学生は、技能だけではなく保育者としての資質も重要である、ということを感じていることがうかがえた。
- ③ ボランティア経験をして、さらにピアノ（キーボード）を使った保育の参加経験を積んだ学生ほど、経験のない学生に比べて歌の伴奏付の授業もピアノ技能を高める授業もどちらの授業も重要であると感じている割合が高い。

現在の授業は、保育現場での臨機応変な対応ができるようにコード伴奏や歌唱力の指導を多く取り入れたりするなど、ピアノ技能の向上ばかりに特化しない指導を構築している。従って授業の方向性としては、概ね学生のニーズにかなっていると考えてよいだろう。

しかし、今回の結果を踏まえ以下の2点については再考する必要がある。

1点目は、「コードネームを用いた伴奏」か「楽譜通りの伴奏」かについてである。「コードネームを用いた伴奏」においても、まずコードネームを覚え、そのコードを瞬時につかむ手指の位置を覚えるなどある程度の練習を必要とする。しかしそれらを修得した後は、時間をかけず初見でも伴奏を簡単に付けることができる。「楽譜通りの伴奏」は、作曲者の意図や表現の幅は広がるが、かなりのピアノ技量（特に読譜力）と時間的な余裕が必要である。まず「コードネームを用いた伴奏」を修得させた後に、段階的にピアノ技能のレベルを上げ「楽譜通りの伴奏」を多くの練習時間を費やさずに弾けるようにさせるというのが理想であろう。但し、限られた時間内にどこまでの指導が可能か、またどのレベルまで達成させるかなどを再考察する必要がある。

2点目は、即興演奏とピアノ技能の高さについての関連性である。喜びや悲しみ、子どもの動きなどを表現するには、ピアノ技能の高い方が優れているのは確かであろう。しかし、少数ではあったが、「子どもたちの様々な感情や状態を感じる力、共感する力はピアノ技能以上に重要だと感じる」とい

った意見もあり，そのような記述は特にボランティア経験者の中に多く見られた。筆者らも同じように考える。ピアノ指導を通して保育者としての感性をどこまで磨けるかが今後の課題であり，小学校学習指導要領にある「鑑賞」の学習経験を通して，より豊かな感性を身につけることも必要である。

### 【付記】

今回の調査については，調査結果の使用について個人が特定されない配慮を十分に行った上で公表することを書面と口頭で説明し，同意を得た上で行った。

### 注・引用文献

- (1) 高地誠子「保育者養成校においてピアノ実技の授業を通して育まれる内面的な成長と求められる指導者像」『小田原短期大学研究紀要』第46号，2016，p.91.
- (2) 奥田昌代「保育者養成における，ピアノ伴奏技能向上の試み～ML（ミュージックラボラトリー）システムを活用して～」『大阪信愛女学院短期大学紀要』第41集，2007，p.48.
- (3) 水崎誠「幼児の歌声を録音する新しい方法」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第19号，2008，pp.9-10.

### 参考文献

- 中島龍一「ピアノ初学者における弾き歌い曲メロディー指使いへの一考察」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第20号，2009，pp.1-10.
- 奥田昌代「ピアノ伴奏技能向上を目指す指導上の試み～伴奏付け指導の効果についての量的分析」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第20号，2009，pp.21-30.